

スクミリンゴガイ対策

三重県病虫害防除所

移植後の浅水管理と耕種的な方法で被害を回避しましょう
今年のうちに貝を減らし、来年の春に適期に薬剤防除することが効果的

1 耕種的な対策

(1) 耕起による貝の破碎

今年、生まれた貝は貝高 1～3 cm になり、圃場内の土の中 0～5cm にもぐって越冬します。(雌 1 頭が約 4,000 個／年を産卵)

効果的に破碎するには、①土壌が硬い時期に、②早い回転数で、③遅い速度で運転し耕起しましょう。

(2) 次年の春までに圃場を均平にしましょう。

浅水管理のポイントは圃場の均平

圃場が凸凹だと、水が深い部分の株が食害されます。

(3) 越冬場所の管理

貝は圃場内と用水路等で越冬します。

水が残っているところでは越冬率が上がるので、①用水路の泥あげ、雑草(餌)の除去、②水田の落水、③用水マスの貝を除去しましょう。

(4) 浅水管理

貝が水稻に被害を及ぼすのは田植え後、約 3 週間まで(6 葉期)。

水深 1cm 以下が理想ですが、4cm 以下に保つと被害が減少します。

特に、被害が生じる田植え直後は、できるだけ浅水にしましょう。

(5) 水路からの貝の侵入防止

貝高 1.5 cm 以上の大きさの貝が、田植え直後のイネを食害します。

水路から貝が侵入する水田では、水口に 1～2cm メッシュの金網や網袋を設置しましょう。

2 薬剤防除

農薬は、稲(苗)に被害が出るまえ、または田植え直後に散布しましょう。

代掻き後で、温度 15℃以上になったら貝が活動します。

(1)殺貝剤

メタアルデヒド粒剤(商品名:スクミノン)は、誘引性があり摂食した貝の腹側筋を麻痺させ死亡及び食害を抑制します。

また、有効成分が水中に溶解し摂食しなかった貝も食害を抑制されます。耐水性であり、多雨条件でも比較的効果が持続します。

移植後、貝の被害が出る前に散布しましょう。

湛水状態で均一に散布し、散布後 7 日間は落水やかけ流しを避けます。

燐酸第二鉄粒剤(商品名:スクミンベイト)は貝の消火器官に作用して死亡させます。水田全体に、粒剤散布機で均一に散布しましょう。

(2)食害抑制

IBP 粒剤(商品名:キタジン P)及びカルタップ粒剤(商品名:パダン粒剤 4)の田植え後に散布する粒剤は食害を抑制、ただし多雨で薬剤が流亡すると効果が劣ります。一方、チオシクラム粒剤(商品名:スクミハンター)も有効成分が徐放性で比較的効果が持続します。

食害抑制剤は、貝の摂食活動を抑制するため、殺貝剤を使用する前の使用を控えましょう。また、カルタップ粒剤を育苗箱施用する場合も同様の注意が必要です。

(3)石灰窒素による防除

①水温が 15℃以上の収穫後(または代掻き前)に 3～4 c m 湛水を保ちます。

②石灰窒素 20～30kg/10a を全面散布して 3～4 日放置します。

③田面水は用水路に流さず、田面が乾いたら耕起しましょう。